

CUPグランプリ

チバ・ユニバーシティ・プレス

江戸川大学4年連続制覇の秘密

取材や記事、レイアウト作成し千葉日報に掲載 評価された「足で稼いだ独自ダネ」

千葉
千葉日報が県内の大学生たちに実際の紙面制作を行わせる企画「CHIBA University Press」(チバ・ユニバーシティ・プレス、略称CUP)。江戸川大学(流山市)は4年連続、優秀賞(グランプリ)に輝いている。そこには新聞活用がありそうだ。

2012年から始まった「CUP」は、紙面作りを「通して学生らの情報活用を養成することが狙い」。学生らは同社で研修を受けた上で、取材や記事作成、レイアウトなど紙面作りを行う。千葉日報に掲載する、地元企業や参加大学から協賛広告を募集する点も特徴的だ。

メディアコミュニケーション学部学生の座談会

「うらして作った」ジビエを食卓へへの紙面

CUP入賞に広報効果あり!?

毎年、さまざまな大学が参加するが、その中でもひととき輝いているのが、江戸川大である。常に高い社



雑誌制作の打ち合わせをする学生ら(左から時計回りに飯山、松原、小川、佐藤、石井さん)

まずCUPを知った時期やきっかけを教えてください。

石井 江戸川大は優秀賞の常連です。入学前から知っていました。目標があると頑張るので、学生記者クラブの清水ゼミ(CUPへの参加を目指していました)。

飯山 清水教授から聞いて今年初めて知りました。他県出身なので、そもそも千葉日報もよく知りませんでした。

松原 入学前です。出版関係の仕事がしたいと思っていて、それなら清水ゼミがある江戸川大に入学しようと考えました。大学HPで清水教授について調べているとCUPのことも知り

ました。

飯山 トップ記事の「ジビエを食卓へ」で取材の高校生を取り上げた「I.O.」

「食べて知る 猟師の仕事」の取材と原稿です。3月の暖かい時期の取材だったので、なぜか当日は雪に(笑)。カメラをぬら

ね。

文章書くときの慎重に

— CUPに参加して自身の成長や変化を感じていますか。

飯山 電話に抵抗がなくなりました。取材でアポをとるとき、電話だと緊張しなかったのが、伝えたのか分らなくなるとか、大きな成長かなと思っています。20代にどう

文章を書くときは慎重になりました。

新聞で使われる言葉

— 一つ一つ高いレベルと痛感

石井 当初、記事の見出しが「害獣」と書いて、千葉日報社の担当者から、

「害獣肉」と書いて、千葉日報社の担当者から、

文章書くときの慎重に

— CUPに参加して自身の成長や変化を感じていますか。

飯山 電話に抵抗がなくなりました。取材でアポをとるとき、電話だと緊張しなかったのが、伝えたのか分らなくなるとか、大きな成長かなと思っています。20代にどう

文章を書くときは慎重になりました。

新聞で使われる言葉

— 一つ一つ高いレベルと痛感

石井 当初、記事の見出しが「害獣」と書いて、千葉日報社の担当者から、

「うらして作った」ジビエを食卓へへの紙面

「うらして作った」ジビエを食卓へへの紙面

「うらして作った」ジビエを食卓へへの紙面



CUPで千葉日報に掲載された江戸川大の歴代紙面

◆江戸川大のCUP受賞歴とトップ記事の見出し(○=優秀賞、▲=特別賞)

2012年▲「ゲーセンに増える高齢者魅力は『長く安く遊べる』」、13年○「ユニドル急増中 多様化する学生の自己表現」、14年「集まれ本好き 文学フリマ盛況」、15年○「パーチャルとリアルの通信制高校」、16年○「表現のステージ『柏』 駅前で根付いたストリート文化」、17年○「(児童養護)施設退所後の不安解消 社会生活ガイドブック作成」、18年○「ジビエを食卓へ 害獣捕獲・流通・消費を定着」

— 石井さんは、取材で度胸を付けたと話していました。

佐藤 だいぶ身に付きまして(笑)。アポなしで取材に行きましたが、以前なら「やりたくないなあ」と動いていないはずなのに(笑)。

テーマ絞りに新聞活用

— ボツになったネタはありますか。

佐藤 「地域猫」を最後の記事を決め、合致する中から数点選んで紙面のようなのを作り、自分が主張したいことを伝えるという内容です。

— なるほど、新聞を使った取り組みが、CUPに生かされているのですね。

佐藤 地域猫も毎日新聞(読者に)賛否を考えてはなかったんです。この地域面(埼玉版)に載ったのが、最初一人20以上はネタを出しました。

— すいすいですね。アイデアを出せるので、軽減という記事を読んだ記憶があります。

小川 CUP参加前から2、3カ月ほどゼミで新聞